

景況レポート

(4月分・情報連絡員 80名)

自粛ムードにより消費減退 ～非製造業のDI値は低水準で推移～

【概況】4月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが6.3%(前月調8.8%)、「悪化」が63.8%(同67.5%)で、業界全体のDI値は-57.5となり、前月調査と比較して1.2ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-34.4で前月調査(-37.5)に比べ3.1ポイント上回った。また、非製造業全体は-72.9で前月調査(-72.9)と同じ値となった。

4月後半には燃料不足や物流もほぼ回復したが、被災地が優先されたことにより材料や資材を入手できなかったり、生産工場が被災したことにより商品が不足する等、大震災による直接的な被害は少なかったものの、その影響は深刻である。

また、消費においても自粛ムードの影響が大きく、復興需要が発生している一部の業種を除いて業況は低迷している。

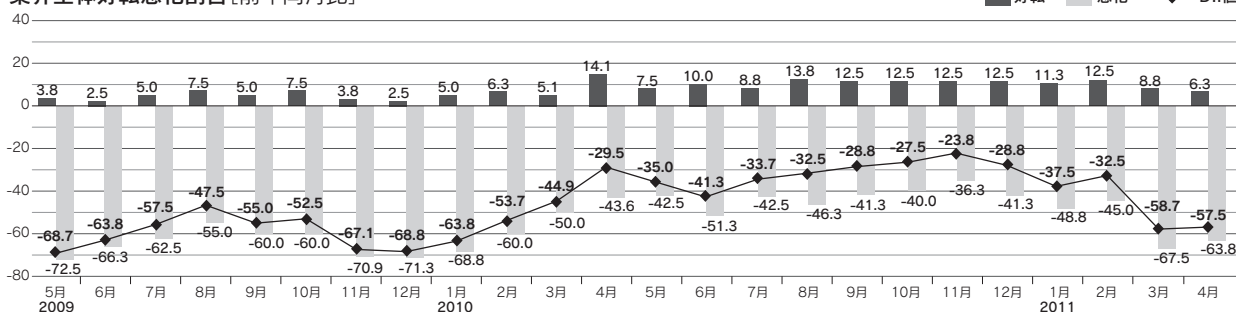
(回答数:80名 回答率:100%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種						
製造業						
非製造業						

【凡例】
 快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 曇り 10以上 30未満
 雨 10未満 30未満
 雷雨 30以下
 【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

豆腐油揚製造	大震災の影響で県外大手企業の製品の入荷が少なく、その分地元企業から製品調達が多くなり、4月中旬までは売上が増加した。
パン製造	大震災による特需で4月前半は売上が伸びたが、中旬から動きが落ち着いてしまった。
繊維製品	大震災直後、被災地での生産不能品は、秋田県内で対応しきれなかった分が、関西、九州方面に多く流れた模様。例年4月はGW用の生産が最盛期に入り、年間で一番受注が多い時期であるのに、買い控えを懸念してかメーカーの発注量は抑え気味となっている。
一般製材	被災地向け仮設住宅用材の注文が入り忙しいが、価格が一定でなく、納期も急であったり、建設場所が決まらない等の理由で納入できない製品を工場に保管したり、断熱材の不足から工事が止まっている現場もある。
外材	4月の丸太の入港実績は南洋材1隻、米国、カナダ材各1隻、合計3隻の入港があり、通常の見積り状態からみると十分な在庫量となった。大震災によって合板需要が高まっており、国産針葉樹の合板の需要と併せて、合板の生産はフル稼働となっている。
みやげ品販売	福島原発事故の風評被害で首都圏からの誘客はゼロに近く、売上は前年度と比較すると10%程度にとどまった。
自動車販売	4月の新車販売台数は、登録自動車が1,170台(前年同月比58.6%)、軽自動車が1,106台(同54.5%)で、合計2,276台(同56.5%)であった。大震災によりメーカーの部品調達が十分でなかったために、大幅に生産台数が落ち込んだことが影響している。
石油販売	ガソリン1ℓ当たり152円で前月比6円引き上げ、軽油1ℓ当たり131円で前月比6円引き上げ、配達灯油は18ℓで1,757円と前月比86円の引き上げとなった。仕切価格の上昇分はある程度小売価格に転嫁できたが、大震災直後の買いための反動や、自粛ムードの影響により、需要が低調になっている。
商店街	【秋田市】4月中旬頃から、自粛ムードも少し和らぎ、ホテルや飲食店において歓送迎会等が開催されるようになってきた。 【鹿角市】鹿角の物流は太平洋側のルートであったため、4月半ばまでほとんど商品が入ってこなかった。品不足の不安から、食品小売だけは売上が良かったが、衣料品・飲食店は全く不調で、3月5日に開店したばかりの飲食店が閉店してしまった。
一般建築	被災地の仮設住宅の引合いもあるが、職人が集まらない状況に加え、現地での食、住に対する問題もある。